

## 令和元年度日本赤十字社診療放射線技師会東北ブロック業務研修会 報告

盛岡赤十字病院 川原 猛

9月28日、盛岡赤十字病院2階記念講堂において、東北ブロック6施設とメーカーより40名参加していただいた。先んじて代表者会議を行ったのち、会長講演から特別講演・教育講演・シンポジウム・記念撮影と会を進めた。

はじめに日本赤十字社診療放射線技師会 安彦会長より、「日本赤十字社診療放射線技師会のこれからの活動 —日本赤十字社の一員としてグループで取り組む—」として講演をいただきました。特別講演では、二題の講演を行った。1題目は災害医療支援部理事の松井久男先生から日本赤十字社と当会の災害医療支援部活動についてご講演頂いた。災害医療支援部の成り立ちや役割について教えて頂いた。2題目は災害医療支援部員の嶋田裕子先生から診療放射線技師の国際貢献についてご講演頂いた。ERU要員になるには、まず英語能力が必要不可欠でTOEIC730点以上というのが高い壁になるようだ。また、嶋田先生がERU要員を志したきっかけ、くじけそうになったときのモチベーションの保ち方、e-ラーニングなどが英語の勉強にもなることを教えて頂いた。この講演が国際貢献に対して興味をもつ、きっかけのひとつとなった。

教育講演では、線量管理ソフトAMDS（アゼモトメディカル）とRadimetrics（バイエル）の2メーカーに線量情報の取得方法からデータの活用まで講演していただいた。

どちらのメーカーも線量情報はRDSR、DoseReportなど施設にあわせた取得方法を相談できる。また、その後の活用については個人の被曝線量の把握はもちろん、様々な集計機能や撮影条件の検討資料になる機能など、それぞれのソフトの特徴を説明いただいた。

シンポジウムではテーマ（これからの被ばく線量管理について —現状と課題）に沿って各施設から現状と課題を報告していただいた。現在CTにおいては線量情報サマリーをSC情報として保存している施設が5施設、さしあたりRISに手入力している施設も3施設あった。線量管理ソフトを導入している施設は無く、どの施設も今後検討する段階であった。厚労省の正式な見解が見えない状況の中ではあるものの、他のモダリティーを含めて今後どのような方向性になっていくのか各施設間にて情報共有を行い対応していくことが重要であるという意見が挙げられた。

すべてのプログラムを終了し、会長そして災害医療支援部からの松井さんと嶋田さんを中心に記念撮影を行い、情報交換会は盛岡市内の「浜来（はまらい）」に場所を移しながら、時間の許す限り場所を移しつつ遅くまで有意義な情報交換を行った。

# 令和元年度日本赤十字社診療放射線技師会東北ブロック業務研修会

開催日：令和元年9月28日（土）13：00～17：30

会場：盛岡赤十字病院 2F 記念講堂

## 【プログラム】

総合司会 盛岡赤十字病院 川原 猛

12：30 受付開始

13：00 代表者会議

13：25 開会の挨拶

盛岡赤十字病院 川原 猛

13：30 会長講演

座長 盛岡赤十字病院 川原 猛

「日本赤十字社診療放射線技師会のこれからの活動

－日本赤十字社の一員としてグループで取り組む－

日本赤十字社診療放射線技師会 会長 安彦 茂（仙台赤十字病院）

14：00 特別講演

座長 盛岡赤十字病院 佐々木 駿

「日本赤十字社と当会の災害医療支援部活動」

日本赤十字社診療放射線技師会 災害医療支援部理事

松井 久男（長浜赤十字病院）

「診療放射線技師の国際貢献」

日本赤十字社診療放射線技師会 災害医療支援部員

嶋田 祐子（大阪赤十字病院）

15：10 休憩（10分）

15：20 教育講演

座長 盛岡赤十字病院 佐々木 好未

「被ばく線量管理ソフト Radmetrics」 バイエル株式会社

「被ばく線量管理ソフト AMDS」 アゼモトメディカル株式会社

16：20 休憩（10分）

16：30 シンポジウム

座長 盛岡赤十字病院 厚谷 祥一

テーマ 「これからの被ばく線量管理について－現状と課題」

八戸赤十字病院 松倉 裕次

秋田赤十字病院 田口 浩

盛岡赤十字病院 大山 浩貴

仙台赤十字病院 鈴木 陽

石巻赤十字病院 今野 基之

福島赤十字病院 佐藤 勝行

17：30 集合写真撮影・閉会の挨拶

施設見学（希望者）

19：00 情報交換会



